

G20 への展望

安保政策研究会理事 宇田信一郎

本年6月日本で開催されるG20は、G8やG7の7年か8年毎と違って日本が議長国となる20年に1度の機会である。20年前の日本は、沖縄でG8サミットを開催したが、その頃、私が考えていた国際社会の目指してきたものを、簡略ではあるが、現在の状況と比べてみて何が必要かを示唆し、大阪G20サミットへの道しるべとしたい。

G7は、1975年の始まりは、石油危機に対する先進国の経済サミットで、79年の旧ソ連のアフガニスタン侵入後は、政治サミットになり、89年ベルリンの壁崩壊を契機とした冷戦終了後は、ロシアを加え、G8となった。

G7サミットでは、安全保障や領土問題も課題になり、核不拡散、軍縮、民族問題、温室効果ガスをはじめとする地球環境問題、国際金融システムなどや南北問題も取り上げられ、累積債務問題、開発途上国の経済発展、重債務国の救済も論じられた。安全保障、グローバルな政治経済と各国の国内政策にも影響する問題が網羅され、先進国の戦略、政策の調整とリーダーシップが求められてきた。

G20も、1997,1998年のアジアの経済危機から、新興国と先進国の間に、金融・経済秩序の構築、安定への協議が必要になり、経済サミットとして発足し、G7,G8で実現しえなかつた国際社会の経済的安定をG20との連携を含めて実現を目指しているが、中近東の政治的不安定、北朝鮮の核開発をはじめとして、軍事的な問題、各国の領土を含む覇権争いなどから、今後は、政治的、安全保障的な協調・安定を図るサミットにもならざるを得ないであろう。

私は、1986年に、1960年の日米安保条約時の米国の日本大使ダグラス・マツカーサー2世（元帥の甥で、第2次世界大戦末期に、ルーズベルトのスターリンへの密書をイラン周りで届けた国務省のエリート）が米ソ冷戦の宥和のため、4月、5月にサンクトペテルブルク、モスクワでの会議のためソ連に行くとき、オブザーバーとして同行し、その結果10月のレイクキャベツでのレーガン・ゴルバチョフ会談、翌1987年の中距離核戦力(INF)廃棄条約に繋がっていたので、1989年のベルリンの壁崩壊、1991年のソ連解体後のロシアのサミット加盟には、感慨があり、当時、より安定した世界秩序の実現に希望を抱いた。

沖縄サミットには、ロシアのプーチンも出席したが、冷戦終了後、当初準メ

ンバー的存在であったロシアは、まだ、G8 サミットを開催する機会がなく、2006年に、初めてサンクトペテルブルクで、開催したが、その後、2014年のクリミア紛争をめぐって、G8 から除名された。

現在、沖縄サミットの時に比べて、冷戦時代の東西の世界の二極化への逆戻りへの要素が、やや心配される。冷戦時代と違うのは、経済的には、ソ連が韓国よりやや大きな GDP に相対的な順位を下げているのに対して、中国が世界第二位の経済規模で、IT を含む第 4 次産業革命でも、米国へ挑戦していることであり、軍事的に強力なロシアが、INF を順守してこなかったのに対して、米国が条約離脱宣言をしたこと、北朝鮮が非核化に応じるかどうか、イランを含む中近東の抗争が、先進国の民主主義のポピュリズム化を進めていることなどである。

G7/G8,G20 の役割は、これら国際社会の不安定要素を鎮め、世界が公正なルールのもとに、安定的に発展する事であり、日本の役割、人類に対する貢献は、同盟国の米国、TPP 加盟国、日・EU 協定諸国,Brexit の英国を含む英連邦諸国、アジア・アフリカの民主国家と協力して、中国、ロシアをはじめとしてその影響力のある国々とも宥和を進め、国際社会の共存を図る戦略、政策をよきコーディネーターとして、推進することである。

本年の大阪での G20 における使命は、基本的にはこの線に沿って、安全保障、金融、貿易、国際投資、主権の尊重、デジタル時代の国際ルール、Society 5.0 への政策。提言をすることが、求められている。

では、20 年前の沖縄サミットの時には、どういうことが国際問題として横たわっていたのであろうか。

私は、2000 年の沖縄サミットの際、世界的なサミット研究のネットワーク組織 G8 リサーチグループのメンバーとして、外務省後援で、国連大学や、国際高等開発機構と共に、シンポジウムを開き、インターネットで世界に発信したり、グループのサミット評価を、全国紙が掲載したり、NHK が放送したが、「グローバル化と G8 の役割」と題する論文（後に、英国で *New Directions in Global Political Governances* という題で出版されたサミット研究書に収録された）を首相に提出、直筆でお礼状をいただいたが、以下新聞社の私へのインタビュー記事の一端を記す。

「ワールド・ガバナンス(世界統治)という立場から、重要性は、増している。蔵相、外相、会合とは別に、通商、環境、教育、テロ対策などの会議があり、集大成が、首脳会議だ。昨年ケルンサミットで、NATO が国連決議を経ずに行ったコソボ空爆を G8 が収束させた。サミットは、世界秩序の安定に不可欠だ」

「サミットは、EU やアジアの地域国家連合が、戦前のブロック経済復活でなく、グローバル化のプラスとなるよう指導力を発揮すべきだ。世界銀行や IMF, WTO など関係国際機関で総合的政策が取れるように、連絡会議を G8 で作り、世界金融秩序の構築や開発などに影響力を行使できるようにした方がいい」

- グローバリゼーションの“光と影”の利害調整なくして、今後の世界秩序の安定は担保されない。

「富める国と貧しい国がどううまくやるか、G8 は努力すべきだ。最貧国の債務帳消し問題は、去年のケルン・サミットの公約だが、前提として、最貧国にも国家再建プランを出してもらう必要がある。帳消しの余剰金で、武器を買うことがあってはならない。重債務国の輸出品に関税をかけないのも援助になる」

「IT (情報技術)宣言はいいことだ。情報に先進国も途上国も公平にアクセスできることが重要。IT を世界安定のための国際公共財として援助することが大事だ。言語変換が可能なハード整備面での協力を、世界戦略として取るべきだ。デジタル化が進むと、放送、通信、コンピューター、インターネット、データベースの総合的システム統合の動きが出てくる。サミットは、デジタル・デバイドを深くしないよう公正な標準化に努力していく事が必要。法の整備、合理的な国際システムの選択に関し、サミット担当者と国際専門機関との連絡協議会の設置も視野に入れるべきだ」

---沖縄サミットは、何を発信すべきか。

「戦争の世紀の犠牲者である沖縄から平和宣言を出すことだ。例えば、サミット八か国の間では戦争はしない。世界のいずれかの地域で不安定化ないし、紛争の予兆があるときは、各国の基本法の範囲内で最大限努力し安定化に努める」といつた宣言ができれば、台湾海峡や朝鮮半島を含め世界の平和維持に大きな影響を与える。「G8 首脳は、対立・紛争・戦争の 20 世紀を、平和・協力・共存・繁栄の 21 世紀にするためリーダーシップを発揮してほしい」

以上沖縄サミットの時、インタビューされた私の、考察を述べたが、その課題の本質的な面は、依然として 2019 年の現在の問題であり、日本がこれらの面で、政策提言、会議のリーダーシップを含めて果たすべき責任がある。

最近の、情勢を踏まえて、付言するならば、

- (1) アジアの安全保障にとって重要なのは、北朝鮮は、核廃棄や拉致問題を解決することにより、アジアおよび世界の安定に貢献することになること、
- (2) 第 2 次大戦の結果、領土の拡張はしないという大西洋憲章の精神の尊重が、

- 日口の平和条約締結や、たとえば、AIIBのような国境を超える国際協力プロジェクト、その他の資源・エネルギー開発国際協力計画、移民を含む国際間の人種移動などにもできるだけ反映されること、
- (3) デジタル時代・第4次産業革命の到来を踏まえて、データ情報取引、キャッシュレス取引・暗号通貨、デジタル課税を含む国際金融・国際投資、国際貿易に公正なルールが樹立されること、
 - (4) テロ対策やハッカー攻撃へ協力して対処していくプロジェクトを推進する事、
 - (5) 以上すべてについて、国連をはじめとする関係国際機関と協力していく事等々について、

G20のメンバー国のより深い認識と共通の理解が深まることが望ましいし、本年のG20サミットで何らかの合意が生まれることを期待したい。

以上

(宇田信一郎
G7/G8/G20 リサーチグループメンバー
ロンドン大学 LSE 国際社会経済フォーラム 会長
新政研究会 代表
英国王立国際問題研究所 メンバー
ケインズ学会メンバー
元 NHK 会長室国際協力主幹)

追記

国連のSDGs(持続可能な開発目標)への17の目標もG20の議論に十分考慮されることが望ましい